

施策	91	市民参画による協働の促進				政策	9	市民と共に進める行政経営	
施策主管課	地域づくり・庶務課	課長名	寺澤 保義	内線	2110	政策担当部長名	総務部長 小池永利		
施策関係課名	秘書室・企画課・議会事務局・選挙管理委員会事務局								
重点施策	関連計画	新市建設計画							

1 施策の目的	
目的	対象 市民・行政
	意図 協働する

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	見込み 28年度
①	住民人口	人	105,691	105,335	104,728	103,947	103,460	102,000
②								
成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	目標 28年度
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理								
①	協働のまちづくりが進められていると感じている市民の割合	%	38.1	31.9	35.3	40.5		50.0
②	市政懇談会参加者数	人	1,480	1,449	1,727	1,624		1,650
③								

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	目標 28年度
行政	市(国・県) ★市議会を含む	市民の多様な参加の機会を整備し、協働のまちづくりを推進し、住民自治の拡充を図ります。	① 附属機関(審議会等)のうち公募枠を設定している機関の割合	50	50		65
			②				
主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項			
市民等	市民	市民は、市長その他の執行機関及び市議会と対等な立場で協働し、まちづくりを推進することに努めるものとします。	市民参画の機会に応募した市民の数(割合)、参画した市民数(割合)、アンケート調査の回答数	・地域協議会委員の内、公募による委員の数及び割合 57人 16% (前回 H21改選時 58人 16%)			

3. 平成24年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

<input type="checkbox"/>	計画どおり取り組めた
<input checked="" type="checkbox"/>	おおむね計画どおり
<input type="checkbox"/>	あまり取り組めなかった
<input type="checkbox"/>	達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<input type="checkbox"/>	進んだ
<input checked="" type="checkbox"/>	ある程度進んだ
<input type="checkbox"/>	あまり進まなかった
<input type="checkbox"/>	進まなかった

4 平成24年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

・市民、行政が協働するという意図で、多様な主体が活動する上で必要となる懇談や公聴機能を高めてきたことから、市議会や団体の活動も含めて、関心を持つ市民が増えている。市政懇談会は単年度の変化はあるものの、全体としては増加傾向となっていることに加え、地域の将来ビジョンを議論する場として活用するなど、質的な変化も生まれてきた。

【事務事業群テーマ別の評価】

<協働を担う多様な主体の支援>

- ・ムス飯田まちづくり、地域づくり応援事業を通じて独創的で波及効果が高い31事業を育成した。
- ・NPO支援として、ムスファンドを通じて4件の事業資金を融資し、新たな事業活動4事業を育成した。
- ・市政功労者表彰については、市民の心の励みとなるよう、表彰・感謝状を贈っている。

<市職員の意識改革>

- ・第5次基本構想基本計画に基づき実施される事務事業について、達成状況を振り返りながら改善改革の提案につなげた。

<まちづくりへ参加する手段の確保>

- ・第5次基本構想基本計画における市民参加の機会を保証し、進捗状況の評価と意見提案を得ている。
- ・「広報いいだ」や「市議会だより」、「ウェブサイト」等を活用し、市民がまちづくりに関心を持ってもらえるよう取り組んだ。市政懇談会や議会報告会を開催し市民と意見交換する中で、市の施策について市民の声が反映できるよう努めた。

<自治意識の向上>

- ・市民活動を展開している個人、団体の情報(130件)を事例集として刊行し、連携の輪をつなげる事業に取り組んだ。
- ・市民と一緒に選挙啓発活動や、選挙事務に参加できる環境を整えてきている。

<市政懇談会の開催方法の工夫>

- ・リニア時代を見据えた地域づくりを地域と一緒に考えるために、地域の将来像を見据えて、従来の質問型から「意見交換・討議型」に移行した。また、土曜日開催を4地区で取り入れた。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

- ・市民活動を展開している個人、団体について「ムスの精神」に沿った活動が展開できるよう、顔が見える情報交換の場を創出し、まずは既存のネットワークをベースにその活動の和を広げる。
- ・市政懇談会を地区住民の自治意識の共有を高める機会とできるよう、市とまちづくり委員会で地域に沿ったテーマを理解し合える仕組みを育てる。
- ・議会の広報公聴機能を高めるために、引き続き市議会だよりやウェブサイトを活用する。議会報告会を通じ対話や意見交換を深め市民の声を反映する。
- ・市民が選挙に関心を持つことも重要であることから、引き続き、市民と一緒に選挙啓発活動や、選挙事務に参加できる環境を整えていく。